

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo: Village Voice

《ニューヨークの情報源》

今回はニューヨーク（以下 NY）で生活していた頃の情報源についての話。今から 20 年程前のことで、当時はインターネットも携帯電話もパソコンも一般には普及していない時代。新聞や雑誌、テレビやラジオが主な情報源だった。

渡米する前の NY に関する情報は、『地球の歩き方<ニューヨーク編>』のみ。今ならネットを活用して、渡米する前から画像や映像も含めて様々な情報を入手できるが、当時は『地球の歩き方』をめくりながら、NY の街並みを頭の中で想像することしかできなかった。しかし、その分だけ、遠くにマンハッタンのビル群が見えてきた時の興奮、マンハッタンに到着した時の興奮は凄かった。

NY で暮らし始めてからは、『New York Times』等、有名な英字新聞もあったが、せいぜいスポーツ覧の記録をチェック出来るくらいの英語力しかなかったため、テレビでもニュース番組を真面目に見ることもほとんどなく、真剣にチェックしていたのは当時毎週火曜日か水曜日辺りに発行されていた『Village Voice』という週刊新聞だった。この『Village Voice』にはジャズをはじめ、様々な音楽のライブ、コンサート情報が掲載されていたため、毎週念入りにチェックしていた。当時の街角には、所々に新聞が入ったスタンドが設置されていたのも懐かしい。あとは、たまにラジオも聴いていたが、その昔 FEN で流れていた様ないかにもアメリカっぽい雰囲気が好きだったからだ。

また、NY で暮らしていても日本の情報は何かと気になるもので、当時はフジテレビ系のニュース番組が毎朝 1 時間枠で放送されていたため毎朝ではないが、よくチェックしていた。ニュースの後には日本の TV ドラマの再放送も流されていた。日本の新聞はウェイターの仕事をしていたレストランで読むことが出来た。時差の関係でテレビも新聞も約 1 日遅れの情報だったが、随分お世話になった。あとはミッドタウンに「紀伊国屋書店」や「旭屋書店」といった日系の書店も数件あったため、時々立ち寄っていたが、送料やレートの関係で定価より高く売られていたため、購入することはあまりなく、もっぱら立ち読みしていた。あとは当時、NY にいる日本人向け情報誌『OCS NEWS』等もよく知られていた。

日本でも同じだが、現在ではパソコンやスマートフォンでキーワードを打ち込むだけで、瞬時に情報が手に入る時代となった。便利であることはとても有難いことだが、毎週『Village Voice』の発行を待ち望んで、ライブ情報をこまめにチェックしていた時代が懐かしくもある。当時のワクワクするような気持ちは、瞬時に知り得てしまうパソコンやスマートフォンではけして味わえないかもしれない。

自分自身、雑誌の発行に携わっている身なので、印刷代や梱包代等が掛かる雑誌（紙版）は止めてしまって、デジタル版に移行する方が合理的で利口なのかもしれないが、NY で暮らしていた当時の『Village Voice』を手にした時のワクワク感は忘れたくはなく、また、音楽をレコードで聴いていた時代のアナログ感の様なものも大切にしたいと思っている。だから何と言われようと、今後も発行は続けていくつもりで、『The Walker's』も形、雑誌として残していきたい。